

暑さに負けず 子どもパークゴルフ大会

あさひパークゴルフ場で7月8日、第3回子どもパークゴルフ大会が開催されました。この大会は旭市子ども会育成連絡協議会と旭市青少年相談員連絡協議会の共催で、パークゴルフを通して、子どもたちの健全育成と青少年相談員との交流を目的に開催されています。

大会当日は市内小学校3年生から6年生まで46人が参加し、青少年相談員が競技補助者として子どもたちを指導しながら、一緒にプレーしました。

プレーを通して交流を深める

子どもたちと青少年相談員は、晴天に恵まれ真夏日となったこの日、そろいの帽子を着用し、プレーを通して交流を深めました。



青少年相談員から指導を受ける子どもたち

初めてプレーする子どもも参加していて、青少年相談員が暑さに負けない熱意あふれる指導をしていました。各コースを回るうちに、子どもたちの緊張もほぐれてきたのか、青少年相談員との距離も縮まり、互いを名前で呼び合うほど打ち解けました。



大会に参加した子どもたちと青少年相談員

子ども会と青少年相談員が連携

旭市子ども会育成連絡協議会は、市内78の子ども会組織が加入し、約1,800人の子どもたちと約620人の育成者から成り立っています。主な行事はパークゴルフ大会のほかに、親子地曳網体験、デイキャンプ、書き初め展などがあり、子どもたちがいろいろな人たちとの交流を通して成長できるように開催されています。

青少年相談員は、子どもたちと一体となり共に行動し、良き理解者や相談相手となるよう活動を行っています。

今後も子ども会と青少年相談員が互いに連携しながら、子どもたちの健全育成が図られることを期待します。

あさひ輝いた人々

第1回

旭の地名に 関係する人

木曾 義昌 (1540~1595年)



木曾義昌は、徳川家康の命令で木曾(長野県)から網戸に移された戦国武士です。網戸ではまちづくりをするなどよい政治を行ったので、領民から慕われていました。

天文9(1540)年木曾義康の長男として生まれ、朝日将軍といわれた木曾義仲から数えて19代目に当たります。元々は木曾谷を拠点とする戦国武将ですが、小田原の北条氏が豊臣秀吉によって滅ぼされた後、長年住んだ木曾の地から、阿知戸(網戸)一万石に移されたのです。

天正18(1590)年三川村の福蔵寺を屋敷として使用した後、翌年に網戸に移りました。網戸城の建設、城下町の整備、市場を開くなど数々の事業を行ったといわれていますが、くわしいことは分かっていません。

文禄4(1595)年旭の地で亡くなりました。義昌の遺体は椿海の水中に葬ったといわれています。旭警察署の南側(国道126号の反対側)に「木曾義昌公水葬跡石塔」があり公園になっています。菩提寺は網戸東漸寺で「東漸寺殿玉山徹公大居士」と号し、供養塔が建っています。

その後、木曾家は義昌の子の義利に乱暴な振る舞いが多く、網戸の地を追放されました。

嘉永5(1852)年京都から国学者の野々口隆正が、義昌の旧跡を訪ねて東漸寺を訪れたときに詠んだのが「信濃より いづる旭をしたいきて 東の国に あととどめけむ」という歌で、旭市の地名の由来ともいわれています。



木曾義昌の供養塔